

平成28年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として整備され、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設を一体的に運営し県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場である。これまで公益財団法人滋賀県陶芸の森が管理運営してきた中で蓄積した情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、地域性、国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

平成28年度は、県および甲賀市から指定管理者として新たに5年間の選定を受け、中期経営計画（第Ⅲ期）を策定して、引き続き施設の適切な運営管理に努めた。

また、アーティスト・イン・レジデンス事業において、文化庁の補助事業ならびに関西広域連合の受託事業を実施し、国内外のレジデンス機関との連携を推進した。さらに、陶芸の森として第3回信楽まちなか芸術祭へ協力し各事業を支援した。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。（陶芸の森 年間入園者数 387,061人、昨年度400,238人）

(1) 陶芸作品の野外展示

館内と野外作品とを融合させる展示を試みた夏の展覧会にあわせて、経年劣化で読めなくなった作品キャプションを新たに作り直し、作品の保全に努め、誰もが緑豊かな自然の中に点在する作品の魅力を再認識できるよう取り組んだ。

(2) 窯の広場

穴窯をはじめとする7基の薪窯で陶芸家のモチベーションをあげることができた。「しがらき学ノススメ!」では講座のバリエーションを増やし、また、来園者には活きた薪窯を見てもらうことができ、陶芸の森らしい園内散策のポイントになっている。

(3) 花咲く公園

昭和の時代に信楽焼の主力製品であった各種の火鉢を植木鉢として再利用し、来園者に楽しんでもらうために植栽管理に努めた。また、太陽の広場から陶芸館にかけての斜面をはじめ園内沿いの花木などの適切な管理を行い、花咲く公園として景観の向上に努めた。

(4) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し、信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらった。

(5) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及のため、ボランティアによる活動支援を受け、利用者へきめ細かなサービスを提供した。平成28年度登録ボランティア数 41人

ア. ボランティア活動状況

・園内案内 4人

- ・子どもやきもの交流事業 7人
- ・イベント補助 13人
- ・スキルアップ研修会 60人
- ・ボランティアミーティング 14人 計延べ 98人

イ. ボランティア研修会

昨年度の最後のボランティア・ミーティングでは、いろいろな今後の活動のアイデアを議論し、その中で提案された「信楽の薪窯ガイドを目指す!」というアイデアを採用し、今年度は陶芸の森ボランティア対象に、本格的な薪窯研修を進めた。

研修にあたり、県内在住の若手作家松本治幸氏をコーディネーターにお願いし、薪窯についての基本知識の習得、信楽の2作家らの窯を見学、作品制作、その作品の焼成体験を作家の窯で行うという本格的な焼成を体験した。

<開催日>10月18日(火) 「薪窯焼成体験 窯詰め」 10人

10月24日(月) 「薪窯焼成体験 窯出し」 14人

<会場>松本治幸氏の窯「磁器焼成の窯」(栗東市)

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点である陶芸の森へ多くのやきものファンや観光客に来園してもらい、信楽をよりよく知ってもらうよう各種講座や陶器市など様々なレクリエーションイベントを開催した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ!

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げて陶芸制作講座を開催した。団体向けにも目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図った。

ア. 実技講座シリーズ

(7) 「細川政己氏の野焼きを学ぶ一磨いてつくる私だけの…」

<開催日>5月15日(日) 講師:細川政己 (参加者:20人)

5キロの粘土を使用し、壺などを制作。

乾燥後磨いて作品を仕上げ、素焼きをし29日に野焼きを行った。

(4) 「技法別講座1 “ラク焼”の茶碗をつくる」

<開催日>5月29日(日) 講師:奥田英山 (参加者:25人)

講師の指導のもと、ラク焼の茶碗を制作した。後日、ラク焼の焼成をおこない赤ラク、黒ラクなどの茶碗が出来上がった。

(7) 「食卓を彩るうつわをつくる」

<開催日>6月19日(日) 講師:小川颯三 (参加者:22人)

講師の指導のもと、てびねりで普段食卓で使用する飯碗、取り皿、湯呑みなどの器を制作した。

(4) 「ミニ窯をつくる」

<開催日>7月3日(日) 講師:越沼信介 (参加者:18人)

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくった。後日窯で素焼して、炭を燃料にした焼成を体験した。

(7) 「練り込みのうつわをつくる」

<開催日>7月10日(日) 講師:村田 彩 (参加者:27人)

色土を練り合わせて模様を作り出す「練り込み」の技法で皿、鉢などのうつわを制作した。

(4) 「特別展「珠玉の湖東焼」関連企画 美しき豆皿をつくる」

<開催日>11月20日(日) 講師:神山直彦 (参加者:20人)

陶芸家の指導のもと自分デザインの豆皿を五枚制作した。

(キ)「イッテコイ窯で作品をつくる」

＜開催日＞11月27日（日） 講師：小牧鉄平 （参加者：15人）

信楽焼作家の指導のもと、食器、花器などを作陶した。

作品は後日、イッテコイ窯（小型の薪窯）で焼成した。

(ク)「特別展「珠玉の湖東焼」関連企画 正月を祝う華やかな器を上絵付けする」

＜開催日＞12月4日（日） 講師：渡部味和子 （参加者：22人）

絵付け技術の習得を目指し、お皿に上絵付けをした。

(ケ)「ラク焼の茶碗をつくろう！上級向け」

＜開催日＞3月12日（日） 講師：奥田英山 （参加者：26人）

手びねりで赤ラク、黒ラクなどの茶碗を制作した。後日、茶会を開催。

イ. 穴窯体験講座

(ア)「信楽焼のうつわをつくる」

＜開催日＞9月11日（日） 講師：大西左朗 （参加者：20人）

食器、茶碗など自由に作陶した。作品は後日、穴窯で焼成した。

(イ)「信楽焼の干支をつくる」

＜開催日＞9月25日（日） 講師：八幡 満 （参加者：13人）

平成29年の干支・酉の置物を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

(ウ)「信楽花入れをつくる」

＜開催日＞10月2日（日） 講師：西尾瑞舟 （参加者：11人）

壺、花入れなどを制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

(エ)「信楽大壺をつくる」

＜開催日＞10月29日（土）30日（日） 講師：神崎継春 （参加者：6人）

大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

(オ)「信楽酒器をつくる」

＜開催日＞11月13日（日） 講師：五代 高橋楽斎 （参加者：21人）

片口、徳利などの酒器を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

・「穴窯焼成講座 説明会」

＜開催日＞説明会7月3日（日）

焼成日11月9日（水）～11月13日（日） （参加者：15人）

30kgの粘土を使い自由に作品を制作し、実際に焼成することで、焼成技術の習得も同時に目指した。

エ. スイッチバックキルン焼成クラスの開催

・「スイッチバックキルン焼成講座 説明会」

＜開催日＞説明会 9月3日（土）

焼成日 2月22日（水）～26日（日） （参加者：14人）

スイッチバックキルンという火前、後ろの差が出来にくい窯で作品を焼成した。20kgの粘土を使い自由に作品を制作した。また、実際に焼成することで、焼成技術の習得も同時に目指した。

オ. 登り窯講座

・「信楽壺、蹲をつくる」

＜開催日＞8月11日（木・祝） 講師：六代 上田直方 （参加者：13人）

5kgの粘土を使用し、信楽壺、蹲を制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

・「信楽大壺をつくる」

＜開催日＞9月3日（土）、4日（日） 講師：篠原 希 （参加者：7人）

内容：大壺を2日間にかけて制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

カ. 団体受入

・「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」

＜開催日＞6月24日（金）～26日（日）（参加者：14人）

穴窯で焼成する花器などの制作及び陶芸の森、町内の見学を行った。

(2) イベントの開催・誘致

ア. 第10回 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

＜開催日＞5月2日（月）～5日（木・祝）9：00 ～ 17：00

＜主 催＞しがらき作家市実行委員会

テント 96張（昨年度：87張）

出展者 約160人（昨年度：約160人）

来園者 28,547人（昨年度：29,532人／4日間 対前年度比96.7%）

5月の連休に実行委員会形式で開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得た。

イ. 野外音楽&フリーマーケットイベント「SIVEL WARS」の誘致

＜開催日＞8月14日（日）

＜主 催＞SIVEL WARS 2016 実行委員会

ステージイベント 8組

物販ブース 21ブース

飲食ブース 14ブース

来園者 3,690人

8月の集客対策としてイベント誘致を行った。地元信楽の魅力が詰まったフリーマーケットや飲食ブース、またステージではバンド演奏、DJ、ダンスパフォーマンスなど、信楽では初となる「野外フェスイベント」として、多くのお客様でにぎわい、入園者増につながった。

ウ. 第21回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森

＜開催日＞10月8日（土）～10日（月・祝）（3日間）

ブース数 173件（昨年度：172件）

テント数 132張（昨年度：121張）

出展者数 114人（昨年度：121人）

来園者数 24,558人（昨年度：24,108人／3日間 対前年度比101.8%）

エ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

＜開催日＞12月11日（日）（参加者：85人）

＜協 力＞ぽぽんた倶楽部（総合型地域スポーツクラブ）

オ. 平成28年度陶芸の森フォトコンテスト

＜募集期間＞5月1日（日）～10月31日（月）

＜応募者数＞13人（県外2人、県内11人）

＜応募点数＞38点

＜結 果＞特選 藤川 茂 『野焼き展開』

入選 中西裕子 『オシャレ対決』

井上先夫 『叫ぶ』

中田守治 『陶芸の秋』

佳作 2人

＜表彰式＞11月20日（日）

特選 賞状、賞金2万円

入選 賞状、賞金1万円

<審査員>今井一郎（全日本写真連盟会員）

黄瀬三朗（日本石仏協会理事）

川口雄司（滋賀県陶芸の森理事長）

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めた。

貸出実績 6箇所 計 25作品

(4) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告をはじめとした有料媒体のみならず、WEBを中心とした無料媒体への情報提供や読者プレゼントの提供、パブリシティ、ホームページの充実を通して、積極的な情報発信を行った。

また、SNS（Facebook ページ、Twitter）では、桜や紅葉といった四季折々の情報や、薪窯の焼成風景など、陶芸の森ならではのトピックスを頻繁にアップロードすることで、陶芸の森に親しみを深め、足を運んでいただけるような情報発信に努めた。

【主な掲載・放送実績】

TV 『ZIP! あおぞらキャラバン』（日本テレビ）

TV 『おうみ発 630・キャラバン』（NHK 大津放送局）

雑誌 『BikeJIN 11月号』（柘出版社）

雑誌 『日帰り大人の小さな旅 関西』（昭文社）

フリーペーパー 『RuSC vol. 35』（株式会社ビィサイドプランニング）

(5) 地域拠点活用事業

25周年記念事業を機にまちなかギャラリーとして改修を行った旧藤喜陶苑を、地域拠点として活用し、展示会やアーティスト・トークを行った。また、来年度より地域の団体や有志と協力しながら運営を進めるにあたり、実験的にスペースの提供を行った。

【展示会やアーティスト・トーク】

・陳韋竹「夢の中の動物」作品展示、アーティスト・トーク

<開催日>平成28年4月8日（金）～平成28年4月17日（日）

<出品者>陳韋竹（台湾／平成27年度スタジオ・アーティスト）

<参加者>15名

<内 容>オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

・卓兪翔「An Autopsy: Though the Test of Fire」作品展示、アーティスト・トーク

<開催日>：平成28年7月9日（土）～平成28年7月11日（月）

<出品者>卓兪翔（シンガポール／平成27年度スタジオ・アーティスト）

<参加者>10名

<内 容>オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

・Guillaume Talbi 「FORMS OF LIFE」作品展示、アーティスト・トーク

<開催日>平成28年7月30日（土）～平成28年8月3日（水）

<出品者>Guillaume Talbi（フランス／平成27年度スタジオ・アーティスト）

<参加者>13名

<内 容>オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

・SHIGARAKI ART COMMUNICATION 展

＜開催日＞平成28年10月15日（土）～平成28年11月12日（土）

＜出品者＞信楽青年寮 富増明司、酒井清、大杉和夫、松本孝夫、一宮隆子

信楽在住および滞在の陶芸家、田尾 晃、井掛紗百合、藤原純

甲賀市立小原小学校6年生、甲賀市立甲南第3小学校5、6年生、ミシガン大学芸術学部

研修参加学生

＜参加者＞620名

＜主 催＞ROOF

＜協 力＞社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮、公益財団法人滋賀県陶芸の森

・スタジオ・アーティスト3人展「面白い」

＜開催日＞平成28年12月21日（水）～平成28年12月24日（土）

＜出品者＞タン・シュアン、チャン・チャウ、ティエン・シンイ

【ワークショップ】

・「クリスマスリース、オーナメントづくり」

＜開催日＞平成28年12月10日（土）

＜主 催＞社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

・「陶器のひなにんぎょうづくり」

＜開催日＞平成29年2月18日（土）

＜主 催＞社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

3. 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、環境の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持するよう心がけた。

（1）花木の植栽管理

公益財団法人滋賀県緑化推進会よりジンダイアケボノ（サクラの一種）13本の寄贈を受け、陶芸の森進入路車道沿いへ植栽した。

（2）施設の維持修繕

県の長期保全計画に基づく建物や設備の保全工事を県および事業者と調整して実施するとともに、園内および各建物にかかる所用の修繕を行い、長期的な機能確保に努めた。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付をお願いするため、ホームページをはじめ、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行った。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

陶芸館では産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を開催した。（陶芸

館 年間入館者数 21,566人、昨年度56,431人)

(1) 公募展「マイヤー×信楽大賞 伝統と革新—日本陶芸の今」

<開催期間> 4月1日(金)～6月12日(日) 63日間 同時開催 企画展示「近江のやきもの」

入館者: 6,124人(1日平均97人)

(※平成27年度からの継続 3月12日(土)～6月12日(日) 80日間、

入館者合計: 7,549人、1日平均94人)

・関連事業: ギャラリートーク 4月24日(日) (参加者: 10人)

5月22日(日) (参加者: 10人)

中田ナオト氏(陶芸の森特別賞受賞者) レクチャー&ワークショップ

5月8日(日) (参加者: 20人)

陶芸館ギャラリー企画展 中田ナオト—出会いとひらめきの信楽時間—

<開催期間> 5月8日(日)～6月12日(日) 31日間

オープニングセレモニー&アーティスト・トーク 5月8日(日) (参加者: 35人)

体験講座 細川政己氏(出品作家)の野焼きを学ぶ—磨いてつくる私だけの—

5月15日(日)・5月21日(土)・5月29日(日) (参加者: 20人)

滋賀県とアメリカ・ミシガン州の姉妹友好関係を契機とした、フレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークの日米共同企画による公募展。伝統の技に美を追究した作風、陶の可能性と限界に挑む表現や現代のうつわなど。多様な展開をみせる現代の日本陶芸の様相を、285点(212人)の応募作品から日米の審査員が選考した入賞・入選作26点を通して紹介。グローバリズムの進展と共に、新たな転換期の渦中にある日本陶芸の未来像を模索した。(既催のアメリカ会場からの凱旋展)

(2) 特別企画展「インサイド×アウトサイド — 陶芸の森アート・クルーズ」

<開催期間> 6月19日(日)～9月23日(金) 83日間

同時開催 企画展示「二口尚弘茶器コレクション寄贈記念 お茶のうつわ物語」

入館者: 6,314人(1日平均76人)

・関連事業: 野外作品を探そう! 会期中随時 (参加者: 151人)

ギャラリートーク 7月17日(日) (参加者: 5人)

8月14日(日) (参加者: 10人)

9月18日(日) (参加者: 15人)

子供向け講座:「探検×発見 やきものづくり」

マイでつくるマイマグ 7月17日(日) (参加者: 19人)

色んな形の貯金箱をつくろう!! 7月18日(月・祝) (参加者: 29人)

おしたり、はったり、ちぎったり 7月23日(土) (参加者: 18人)

明かりを灯そう! ランタン制作 7月24日(日) (参加者: 33人)

やきものの箱庭を作ろう! 7月30日(土) (参加者: 18人)

二色の土を使ってお皿を作ろう!! 8月6日(土) (参加者: 33人)

緑豊かな自然のなかに点在する野外作品は、陶芸の森が誇る大きな魅力である。とくに信楽の大物造りの伝統に触れ、作家たちが挑んだ大型作品は、美術館の「なか」では得られない、「やきもの」の魅力を私たちに再認識させるものといえよう。美術館の「なか」(33点)と「そと」(31点)をひとつのフィールドに見立てながら、2つの空間が生み出す作品の魅力と広がりをつき彫りにしてゆくことを試みた。

「二口尚弘茶器コレクション寄贈記念 お茶のうつわ物語」:平成25、27年度に陶芸館収蔵品として寄贈を受けた「二口尚弘茶器コレクション」の中から、「おもしろ茶器」「花で彩られた茶器」をテーマにして48点を初公開した。

(3) 特別展「珠玉の湖東焼」

＜開催期間＞10月1日（土）～12月11日（日） 65日間

第Ⅰ期：10月1日（土）～11月6日（日）35日間

第Ⅱ期：11月8日（火）～12月11日（日）30日間

入館者：7,704人（1日平均118.5人）

・関連事業：ギャラリートーク 10月23日（日）（参加者：32人）

11月20日（日）（参加者：22人）

子ども向け体験講座 湖東焼の世界をアレンジ 華やぐツリーづくり

11月12日（土）（参加者：13人）

体験講座 美しき豆皿をつくる（再掲）

11月20日（日）（参加者：20人）

子ども向け体験講座 青色【染付】で大好きな動物づくり

11月23日（水・祝）（参加者：28人）

ひこにゃん珠玉の湖東焼を鑑賞する 11月23日（水・祝）（参加者：約120人）

体験講座 正月を祝う華やかな器を上絵付けする（再掲）

12月4日（日）（参加者：22人）

湖東焼は滋賀の古陶磁を代表するやきものである。江戸時代後期に彦根城下で花開いたやきもの＜湖東焼＞に焦点をあて、その開窯期から、彦根藩窯であった黄金期時代、そして湖東焼の影響のもとに開窯した圓山湖東焼と長浜湖東焼まで、名品172点を一堂に会して湖東焼の全貌を紹介した。

(4) 特別企画「“うつわ” ドラマチック」展

＜開催期間＞3月11日（土）～3月31日（金） 18日間（平成29年度～継続）

入館者：1414人（1日平均78人）

・関連事業：つちっこ“うつわ”講座 オリジナル仕切り皿づくり

3月25日（土）（参加者：23人）

ギャラリートーク

3月26日（日）（参加者：16人）

“うつわ”は、使う器から、魅せるうつわへとその美の領域を広げていった。このような流れは、戦後のさまざまな国々においてその道筋に違いがみられるが、共通する潮流としてみることができる。世界各地の陶芸家たちの“うつわ”の美を、近年活躍中の若手作家にいたるまでを18カ国86作家の約150点の作品を紹介した。

(5) 収蔵品収集管理事業

次年度（平成29年度）収集候補作品の写真撮影、事前調査、収蔵作品（古陶磁250件）の点検及び台帳記録（調書）の更新、そして展示ケースと高所作業台の定期点検を実施した。また、老朽化した作品収納ケースの更新、劣化した梱包資材の入れ替え再梱包など、収蔵庫の整理作業を行い作品の適正な管理に努めた。

(6) 陶芸館ギャラリー企画展

・アーティスト・イン・レジデンス企画展 「備前×矢部俊一×信楽」

＜開催日＞4月2日（土）～5月5日（木・祝）

・アーティスト・イン・レジデンス企画展 「「中田ナオトー出会いとひらめきの信楽時間」（再掲）

＜開催日＞5月8日（日）～6月12日（日）

- ・「つつっこ！なるほどやきものコーナー」（やきものの素材などを触って体験する展示）
 <開催日> 6月19日（日）～7月10日（日）
- ・「子どもたちの造形一本物との出会いから ミシガン大学×小原小学校、甲南第三小学校の子どもたちへコミュニケーションを楽しみながら」展示作品約26点。（甲賀市立小原小学校と甲南第三小学校とミシガン大学の合同制作作品）
 <開催日> 7月16日（土）～8月28日（日）
- ・「信楽透土がプロダクト製品になる・・・あかりのデザイナー落合 勉」
 信楽窯業技術試験場と連携して開催し、関連企画としてレクチャーを開催した。2008年から信楽窯業技術試験場の要請により照明デザインの支援を進められてきた落合勉氏による信楽透土によるプロダクト製品「サグラダ」シリーズなどを展示発表した。
 <開催日> 9月10日（土）～9月23日（金・祝）
- ・「平成28年度ゲスト・アーティスト3人展」
 <出展者> マルタ・パッチョン・ロドリゲス、ジョン・ペティジョン、リズ・ウィリアムス
 <開催日> 3月11日（土）～3月31日（金）（次年度に継続）

（7）博物館実習

<期間> 8月23日（火）～8月26日（金）（実習生：1人）

（8）子ども事業と連動した陶芸館入館もう一回券「つつっこプログラム 陶芸館に行こう！」の回収

<回収期間> 4月1日（金）～3月31日（金）（回収数：56枚、随行者数106人）

2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

（1）スタジオ・アーティストの受入れ

計 延べ56人

橋本知成（日本 4/1-5/8）（12/1-3/31）、キーファー・植野真由美（アメリカ 4/1-4/20）、須齋尚子（日本 4/1-5/31）、田尾晃（日本4/1-3/31）、杉浦康益（日本 4/4-4/25）、山本淳平（日本 4/12-10/10）、陳韋竹（台湾 4/1-5/31）、植松永次（日本 4/1-4/30）（9/1-10/30）、カミーラ・シモンソン（スウェーデン 4/1-6/25）、中田ナオト（日本 4/28-5/9）、卓兪翔[トック・ユシャン]（シンガポール 5/1-7/16）、桑田卓郎（日本 5/6-7/26）、大谷滋（日本 5/24-11/30）、尾形アツシ（日本 5/26-7/1）、ギウム・タルビ（フランス 6/1-8/5）、コリンヌ・ショヴェ（フランス 6/1-6/30）、田文[ティエン・ウエン]（フランス 6/2-6/30）、西川光男（日本 6/7-8/6）、玄尚哲（日本 6/1-3/31）、マリアンヌ・アヴェルジェル（フランス 7/6-8/5）、藤田真理乃（日本 7/5-11/16、12/20-1/17）、アリス・オキュイト（フランス 7/1-8/15）、ユニス・ルック（カナダ 7/20-8/31）、奈良美智（日本 7/1-8/20）、リ・ウェイハン（香港 8/9-10/31）、小松裕一郎（アメリカ 8/2-11/24）、岡本光博（日本 8/12-9/30）、荒川朋子（日本 8/23-9/30）、エマニュエル・ワンバック（アメリカ 8/24-2/14）、石山哲也（日本 8/1-12/28）、田村一（日本 8/26-10/7）、ジャン・パブロ（メキシコ 10/1-10/24）、フロウキア・ヴァン・バレン（オランダ10/23-11/30）、イザベル・フェランド（オランダ 10/23-11/30）、キム・ジンソウ（韓国 10/2-3/29）、ピーター・ステフェン（オーストラリア 10/6-10/28）、チャン・チャウ（香港 10/1-1/5）、吉田英希子（日本 11/6-1/17）、ティエン・シンイ（台湾 11/1-12/25）、タン・シュアン（台湾 11/1-12/25）、ジャン・フランソワ・バジジオニ（フランス 11/8-12/9）、レジ・デュヌー（フランス 11/8-12/9）、近江綾乃（日本 1/5-2/18）、デヴォン・スリヴァン（アメリカ 12/18-2/18）、マリア・ジュリア・オカンボ（アルゼンチン 1/5-3/20）、シャオ・リー（日本 1/22-3/31）、上田勇児（日本 1/15-3/31）、山田浩之（1/5-2/2）、尾花智子（日本 1/11-2/14）、谷本由子（日本 1/5-1/31）、ファビーネ・ウィゾフ（ベルギー 3/23-4/14）、アマンダ・チャン

バー(イギリス 3/1-3/31)、ギャレット・マスターソン(アメリカ 3/1-3/31)

日本在住28人、フランス7人、アメリカ5人、台湾3人、香港2人、韓国1人、オランダ2人、ベルギー1人、オーストラリア1人、メキシコ1人、アルゼンチン1人、カナダ1人、シンガポール1人、スウェーデン1人、イギリス1人

(2) ゲスト・アーティストの招聘

計 8人

・ベンテ・ハンセン Bente Hansen

居住地: デンマーク

滞在期間: (前年度から継続) 平成28年4月1日～平成28年4月28日

滞在日数: 28日

概 略: 楕円形のシリンダーに転写紙を張り付け、装飾を行った。立体であるシリンダーに平面の装飾を行った。

作品展示: 「Bente Hansen&Bodil Manz in SHIGARAKI」 創作研修館ギャラリー

平成28年4月10(日)～平成28年4月24日(日)

・ボディル・マンツ Bodil Manz

居住地: デンマーク

滞在期間: (前年度から継続) 平成28年4月1日～平成28年4月28日

滞在日数: 28日

概 略: 磁土で成形したシリンダー型の容器に転写紙を張り付けて装飾を施した。磁器の透光性により、作品の内外から装飾が一体となって見える。日本の畳や障子などの幾何学模様をモチーフとした装飾も行った。

作品展示: 「Bente Hansen&Bodil Manz in SHIGARAKI」 創作研修館ギャラリー

平成28年4月10(日)～平成28年4月24日(日)

・今野 朋子 KONNO, Tomoko

居住地: インドネシア

滞在期間: (前年度から継続) 平成28年4月1日～平成28年5月20日、平成28年12月13日～平成29年3月31日

滞在日数: 153日

概 略: 磁土と顔料入りの色磁土を練りこんだ物を手びねりで成型し、植物のように見える形態を作り上げた。

・矢部 俊一 YABE, Shunichi

居住地: 日本 岡山県

滞在期間: (前年度から継続) 平成28年4月1日～平成28年4月5日、5月4日～平成28年5月31日
平成29年1月10日～3月31日

滞在日数: 115日

概 略: 備前の土での造形作品の制作を行っている。形態に対する意識が強く、手びねりでおおよその形を作った後、表面を削りだして成型を行う。備前土に陶芸の森ブレンド土を混ぜた粘土や、粒子の大きさを調整した土を作るなど、土の配合の試験を重ねた。今回の滞在では小型穴窯を使用して焼成を行った。

作品展示: 「備前×矢部俊一×信楽」 陶芸館ギャラリー (再掲)

平成28年4月2日～平成28年5月5日

オープニングにて、アーティスト・トークを開催した。

・マルタ・パッチョン・ロドリゲス Martha Pachon Rodriguez

居 住 地：イタリア

滞在期間：平成28年4月28日～平成28年6月29日

滞在日数：63日

概 略：磁器の練り込みを主な技法として、海や女性をテーマとした造形作品を制作した。

作品展示：「Martha Pachon Rodriguez—SPACE TO DREAM」創作研修館ギャラリー

平成28年6月4日（土）～平成28年6月26日（日）

オープニングにて、アーティスト・トークを開催した。

短期研修：「陶によるアクセサリ制作の可能性」の講師を務めた。

平成28年6月19日

・武村 和紀 TAKEMURA, Kazuki

居 住 地：日本 京都府

滞在期間：平成28年5月1日～10月7日

滞在日数：160日

概 略：連続した幾何学形態が形態を成す作品を制作している。今回の滞在ではこれまでより大型の作品の制作を行っている。

作品展示：「武村 和紀」展 創作研修館ギャラリー

平成28年7月3日（日）～平成28年7月31日（日）

オープニングにて、アーティスト・トークを開催した。

・ジョン・ペティジョン Jon Pettyjohn

居 住 地：フィリピン

滞在期間：平成28年6月10日～平成28年7月28日

滞在日数：49日

概 略：フィリピンにて穴窯での焼成を行っている。壺や扁壺等の伝統的な作品を制作した。今回の滞在では信楽の土を使い、信楽の穴窯での焼成を試みた。

レクチャー：「フィリピンの陶芸事情」

平成28年7月24日（日）

・リズ・ウィリアムス Liz Williams

居 住 地：オーストラリア

滞在期間：平成28年9月1日～平成28年11月30日

滞在日数：91日

概 略：白無垢を被った女性の人体作品を制作した。顔料や金彩釉、銀彩など、普段の制作では使用しない技法にも取り組んだ。

レクチャー：「自作について」

平成28年11月27日（日）

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会の開催

・第1回オープン・スタジオ

「備前×矢部俊一×信楽」アーティスト・トーク、スタジオ見学（再掲）

<開催日>平成28年4月2日（土）

<会 場>陶芸館ギャラリー・創作研修館

<講 師>矢部俊一（岡山県／平成27年度ゲスト・アーティスト）

<参加者>：40名

<内 容>オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

矢部俊一氏は、備前を代表する陶芸家の祖父・山本陶秀と父・矢部篤郎が制作に挑む姿

を見て育った。少年の頃から彫刻家を志し大学の彫刻科に学んだが、卒業後に陶芸の道に進み、自身との対峙の中から生み出す唯一無二の造形美を目指した。特に近年は、手びねり成形した素地の表面に逆光を当てながら削り出す「空刻（くうこく）」シリーズを展開し、高い評価を受けている。独特の幾何学的なフォルム、そして薪窯焼成中に「炎が走る」ことにより、焼締めの胎土の表面に生み出された微妙なグラデーションも矢部の造形の重要な要素となっている。

そんな矢部氏が陶芸の森に滞在中に、信楽という地、人、そして土に触れることで、改めて「土」が持つ力、そして「なぜ土で作るのか」を見つめ直し造形に挑んだ。本展では、近年作品に陶芸の森で制作した最新作品を併せて紹介した。

アーティスト・トークでは矢部氏から見た備前と信楽の特徴に始まり、彫刻出身の矢部氏が陶芸をはじめのきっかけや、作品が現在の形に至るまでの生い立ち、そのコンセプト等を話していただいた。また、陶芸の森アーティスト・イン・レジデンスを経ての今後の作品や活動の展望についても語られた。トーク後は創作研修館に移動し、スタジオの見学を行った。

・第2回オープン・スタジオ

スタジオ見学

<開催日>平成28年4月24日（日）

<会 場>創作研修館

<参加者>20名

<内 容>スタジオ見学 Bente Hansen & Bodil Manz 展（創作研修館ギャラリー）

平成28年4月10日より創作研修館ギャラリーにて開催中のBente Hansen & Bodil Manz展の見学及び創作研修館の見学を行った。

・第3回オープン・スタジオ

「中田ナオトー出会いとひらめきの信楽時間」アーティスト・トーク、スタジオ見学（再掲）

<開催日>：平成28年5月8日（日）

<会 場>：陶芸館ギャラリー・創作研修館

<講 師>：中田ナオト（東京都／公募展「マイヤー×信楽大賞」 陶芸の森特別賞受賞）

<参加者>：35名

<内 容>・オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

中田ナオト氏の今展示に際してのアーティスト・トークを開催した。

中田氏は、マイヤー×信楽大賞展で陶芸の森特別賞を受賞し、陶芸の森で滞在制作する機会を得た。ここでは、さまざまな国からの滞在家や地元の人たちと出会い、やきものの街信楽のニオイを感じたという。そして1ヶ月の出会いと日常の数々を、自作のピンホールカメラで撮影、信楽の陶板に転写し、信楽での時間を封じ込めた。本展では、中田ナオト氏の陶芸の森で制作された新作から紹介した。

・スライドレクチャー

中田ナオト氏のスライドレクチャーを開催した。中田氏には自身が制作した過去作の写真を用いて、作品の制作背景やコンセプトについて語っていただいた。

中田氏にとって粘土は、自らの「態度や感情の起伏を吸収してくれる」魅力的な素材であると語る。この素材を生かしながら、日常の断片に焦点を当て、多彩なアプローチから作品に変換してみせるのは、彼の得意な手法である。そんな中田氏を駆り立てるのは、「驚きと発見」。それゆえ彼にとって新天地に身を置くことは、つくることの大事な要素のひとつでもある。トーク後は創作研修館に移動し、スタジオの見学を行った。

・第4回オープン・スタジオ

「MARTHA PACHON RODRIGUEZ -SPACE TO DREAM-」アーティスト・トーク、スタジオ見学

＜開催日＞平成28年6月4日（土）

＜会 場＞創作研修館ギャラリー／管理棟視聴覚室

＜講 師＞Martha Pachon Rodriguez（イタリア／H28ゲスト・アーティスト）

＜参加者＞25名

＜内 容＞南米のコロンビアに生まれ、現在はイタリア・ファエンツァで活動する陶芸家、マルタ・パッチョン・ロドリゲス氏による作品展示とアーティスト・トークを開催した。今回のトークではマルタ氏の過去作品のスライドから、自身の制作活動の概要について語っていただいた。マルタ氏の作品は磁器の練り込みを主な技法として、造形的な作品からインスタレーション、そしてアクセサリーなど、陶磁器を素材として幅広く制作活動を行っている。

コロンビアに生まれ、イタリアで生活する彼女にとって、海はとても身近なものであり、海は作品制作にも反映されていると言う。言われてみると、どこか角のとれたそれらの作品は海底にじっと身をひそめる貝の様にも見え、また海中で漂っているサンゴの様にも見て取れる。さらに、彼女の作品の特徴のひとつでもある鮮やかな色使いも南米独特の感覚なのかもしれない。黄色やオレンジといった暖色系のビビッドな色を練り込みに使用し、海の表現とするその感覚は、日本ではなかなか感じることのできない温暖な海で育ったマルタ氏特有の感性なのであろう。

トーク後は創作研修館に移動し、展示の鑑賞および、スタジオの見学を行った。

・第5回オープン・スタジオ

「武村 和紀」

＜開催日＞平成28年7月3日（日）

＜会 場＞創作研修館ギャラリー／管理棟視聴覚室

＜講 師＞武村 和紀（日本／H28ゲスト・アーティスト）

＜参加者＞20名

＜内 容＞陶芸の森ゲスト・アーティストとして招聘している武村和紀氏のスライドレクチャーを開催した。

武村氏の代表作シリーズ「Growing」は幾何学構造が連続することで、次第にその形を成していく。土という有機的な素材と作者との駆け引きの繰り返しの中で、武村氏は何を想い、何を求め、土と向かい合うのか。

当日は武村氏の過去作の展示、また創作研修館スタジオでの武村氏の制作スペースの見学も行った。

・第6回オープン・スタジオ「岡本光博・荒川朋子 アーティスト・トーク」

＜開催日＞10月17日（月）（参加者：20人）

＜講 師＞岡本光博、荒川朋子

＜内 容＞岡本氏が運営を行うギャラリーを開設したきっかけとなる表現の自由を巡った戦いの出来事やギャラリーのコンセプト、またそのギャラリーの取り扱い作家である荒川氏は自身の制作についてトークを行った。

・第7回オープン・スタジオ「Liz Williams, Froukje van Baren, Isabel Ferrand アーティスト・トーク」

＜開催日＞11月27日（日）（参加者：20人）

＜講 師＞Liz Williams, Froukje van Baren, Isabel Ferrand

＜内 容＞3氏が陶芸の森へ滞在する以前の作品から、自国の陶芸についてトークを行った。また、Froukje van Baren氏については、勤務するオランダのレジデンス施設のEKWCについてのトークを行った。

・「Bente Hansen & Bodil Manz」レクチャー

<開催日>平成28年4月10日（日）

<会 場>創作研修館、視聴覚室

<講 師>Bente Hansen（デンマーク／平成27年度ゲスト・アーティスト）

Bodil Manz（デンマーク／平成27年度ゲスト・アーティスト）

<参加者>24名

<内 容>レクチャー

「Bente Hansen」

デンマークの陶芸史の概要を話していただいた。デンマークにも過去の絵画作品内に描かれている陶器が現存していることがある。そこからわかるデンマークの陶芸家の当時の生活や制作されていた作品の説明を解説していただいた。また、日本の陶芸とデンマークの陶芸とも関わりや、近現代のデンマーク陶芸についても、自身の作品を交えながら話していただいた。最後に自身が制作について考えていることを述べた映像を流した。

「Bodil Manz」

デンマークでの自身の生活や制作について撮影されたドキュメント作品を流した。彼女がどのような場所で制作を行い、どのような作品を、どのような手順で行なっているのか、また、彼女がどのようなことを考えながら日々制作をしているのか知る手がかりとなった。

◎トークショー

海を超える時の「陶芸」の姿<マーケットの在り方と作品の世界観に関する現場報告と問題提起>

<趣 旨>陶芸のギャラリストとして積極的に海外に若手作家の作品を紹介されている村上隆さんのアートとアートビジネスに対する考え方を、村上さんを含む5人で議論することで、「陶芸」を「多角的に見る場」、「刺激を受ける場」を参加者に提供した。

<スピーカー>モデレーター：村上隆（現代美術家、有限会社カイカイキキ代表取締役）

参加アーティスト：奈良美智（現代美術家）、大谷工作室（陶芸家）、上田勇児（陶芸家）、浜名一憲（陶芸家）

<開催日>平成28年5月7日（土）13時～17時まで

<主催等>主 催：公益財団法人滋賀県陶芸の森

企画協力：有限会社カイカイキキ

<参加者数>約400人

(4) 創作研修館ギャラリーを基点とした情報発信・活性化・展覧会活動等

◎スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

・陳韋竹「夢の中の動物」作品展示、アーティスト・トーク（再掲：地域拠点活用事業）

<開催日>平成28年4月8日（金）～平成28年4月17日（日）

<会 場>旧藤喜陶苑

<出品者>陳韋竹（台湾／平成27年度スタジオ・アーティスト）

<参加者>15名

<内 容>オープニングセレモニー／アーティスト・トーク

・橋本知成「橋本知成 展－内観－」

<開 催 日>平成28年5月10日～平成28年5月22日

<開催場所>Gallery MARONIE（京都）

・植松永次「兔のみた空」

<開 催 日>平成28年6月11日～平成28年7月31日

- ＜開催場所＞京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
- ・卓兪翔「An Autopsy: Though the Test of Fire」作品展示、アーティスト・トーク（再掲：地域拠点活用事業）
 - ＜開催日＞平成28年7月9日～平成28年7月11日
 - ＜会場＞旧藤喜陶苑
 - ＜出品者＞卓兪翔（シンガポール／平成27年度スタジオ・アーティスト）
 - ＜参加者＞10名
 - ＜内容＞オープニングセレモニー／アーティスト・トーク
- ・Guillaume Talbi「FORMS OF LIFE」作品展示、アーティスト・トーク（再掲：地域拠点活用事業）
 - ＜開催日＞平成28年7月30日～平成28年8月3日
 - ＜会場＞旧藤喜陶苑
 - ＜出品者＞Guillaume Talbi（フランス／平成27年度スタジオ・アーティスト）
 - ＜参加者＞13名
- ・武村和紀「武村和紀 展」
 - ＜開催日＞平成28年9月18日～平成28年9月25日
 - ＜開催場所＞目黒陶芸館（三重県）
 - ＜内容＞オープニングセレモニー／アーティスト・トーク
- ・第3回まちなか芸術祭「信楽物語」展に出品
 - ＜出展者＞岡本光博、荒川朋子、田村一、植松永次、田尾晃、石山哲也
 - ＜開催日＞平成28年10月1日～平成28年10月23日
 - ＜開催場所＞信楽町内長野地区散策路内
 - ＜内容＞オープニングセレモニー／アーティスト・トーク
- ・大谷滋「僕が17歳の時、ジャコメッティの話を美術の先生に聞いて、彫刻に憧れて、僕は今、彫刻を作ってます。」（11/26～12/24 カイカイキキギャラリー（東京都））
 - ＜開催日＞平成28年11月26日～平成28年12月24日
 - ＜開催場所＞カイカイキキギャラリー（東京）
 - ＜内容＞オープニングセレモニー
- ・「山本淳平 作品展―遙かなる旅路―」
 - ＜開催日＞平成28年12月14日～平成28年12月20日
 - ＜開催場所＞阪急うめだ本店美術画廊（大阪府）
- ・スタジオ・アーティスト3人展「面白い」（12/21-12/24）（再掲：地域拠点活用事業）
 - ＜出展者＞タン・シュアン、チャン・チャウ、ティエン・シンイ
 - ＜開催日＞平成28年12月21日～平成28年12月24日
 - ＜開催場所＞旧藤喜陶苑（信楽町）
 - ＜内容＞オープニングセレモニー／アーティスト・トーク
- ・今野朋子展「Spring Up:」
 - ＜開催日＞平成29年3月3日～平成29年3月25日
 - ＜開催場所＞現代美術 艸居（京都市）
 - ＜内容＞オープニングセレモニー
- ・「平成28年度ゲスト・アーティスト3人展」（再掲）
 - ＜出展者＞マルタ・パッチョン・ロドリゲス、ジョン・ペティジョン、リズ・ウィリアムス
 - ＜開催日＞平成29年3月11日～平成29年3月31日（次年度に継続）
 - ＜開催場所＞陶芸館ギャラリー

◎その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト等の活躍について

- ・日本伝統工芸会近畿支部展及び日本伝統工芸展への入選
- ・現在形の陶芸 萩大賞展Ⅳへの入選入賞

(5) レジデンスでの滞在作家の町内での活動

- ・スタジオ滞在中のアーティストを連れて、信楽町内の陶芸家の工房やメーカー工場等へ見学に行き、積極的に地域の産業後継者と交流した。2回実施 訪問先：6箇所
- ・町内のイベントである「しがらき火まつり」に参加し、たいまつ火を愛宕山の陶器神社へ奉納した。
- ・昨年度に改修を行った旧藤喜陶苑にて、滞在作家による作品展示を開催した。

(6) 国内外のレジデンス機関等との連携

①文化庁からの補助金を得て、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2016」を実施し、作家10人を受け入れ、また、4人の作家を海外のレジデンス機関に派遣した（一部予定含む）。

・受け入れ作家：

岡本光博(8/12-9/30)、荒川朋子(8/23-9/30)、植松永次(9/1-10/30)、田村一(日本 8/26-10/7)、リズ・ウィリアムス(オーストラリア 9/1-11/30)、リ・ウェイハン(香港 8/9-10/31) フロウキア・ヴァン・バレン(オランダ10/23-11/30)、イザベル・フェランド(オランダ 10/23-11/30)、ティエン・シンイ(台湾 11/1-12/25)、タン・シュアン(台湾 11/1-12/25)

・派遣作家：

EKWC(ヨーロッパ・セラミック・アート・センター：オランダ)へ

大谷滋、田中哲也(平成29年12月～平成30年1月を予定)

台湾国立台南芸術大学(台湾)へ

藤田真理乃、武村和紀(平成29年3月～4月)

②国際シンポジウム 関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽「アーティスト・イン・レジデンスの可能性とその評価」の開催

アーティスト・イン・レジデンスによる地域活性化の取組をテーマにした基調講演、パネル・ディスカッション等からなるシンポジウムを開催することにより、関西広域連合内のアーティスト・イン・レジデンスの先進的な取組及びその成果の共有・情報発信を行った。

主催：関西広域連合・滋賀県

後援：甲賀市・滋賀県文化振興事業団・信楽まちなか芸術祭実行委員会・歴史街道推進協議会

助成：平成28年度文化庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

企画運営：公益財団法人 滋賀県陶芸の森

開催日時：平成28年10月22日(土) 13:00～19:00

参加者数：200人

3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

(1) 「本物と出合うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

- ・連携授業 参加者 112件 6,702人
- ・来園プログラム 参加者 10校 1,288人

- ・ねんどと遊ぶ 参加者 5件 238人（5回開催 平均47人）
 - ・研修会 参加者 1件 13人 合計 8,241人
- 世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会を組織」
- 参加者 98回 3,276人
- 協力：滋賀次世代文化芸術センター 合計 338人

(2)夏季研修会「センス・オブ・ワンダー美術館からの発信きっかけは本物との出会い！

“造形の極”を紐解く！」

＜開催日＞7月22日（金）MIHO MUSEUM（45人）、陶芸の森（13人）（参加者のべ58人）

(3)連携授業および世界にひとつの宝物づくり展の成果展開催

- ・「つちっこ！なるほどやきものコーナー」（やきものの素材などを触って体験する展示）（再掲）

＜開催日＞6月19日（日）～7月10日（日） 陶芸館ギャラリー

- ・「子どもたちの造形ー本物との出会いから ミシガン大学×小原小学校、甲南第三小学校の子どもたちへコミュニケーションを楽しみながら」展示作品約26点。（甲賀市立小原小学校と甲南第三小学校とミシガン大学の合同制作作品）（再掲）

＜開催日＞7月16日（土）～8月28日（日） 陶芸館ギャラリー

第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の伝統技術を将来に継承するための人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示により信楽陶器産業の振興に努めた。

1. 信楽産業展示館の活用

(1)陶器まつりでの産業展示館のブース展示

＜展示期間＞10月10日（土）～11月8日（日）

＜展 示 品＞絵付けを施した大型プランター（デザイン：青木寿美子）

平成27年度に試作した大型プランターの展示をおこなった。

2. 人材育成事業

(1)信楽高等学校への支援事業

ア. デザイン科外部研修受け入れ

「つくられるものの公共性に対する認識」と「個人の自由な表現」の両立という、デザインにおけるバランス感覚を養うため滋賀県立信楽高等学校のデザイン科3年生を対象に、陶芸の森にて実習を行った。谷野明夫氏の指導のもとに信楽の産業製品である2尺の植木鉢に「生物」をテーマにした絵付けをした。

＜スケジュール等＞

絵付け実習 平成28年5月26日（木）

作品窯出し 平成28年6月16日（木）

＜講師＞ 谷野 明夫 （日本工芸会正会員）

＜参加者等＞ 絵付け実習参加者19名

窯出し 19名

イ. 登り窯で焼成する作品の制作

2年生セラミック系列を対象とした作家による実習指導

＜実施日＞10月4日（火）（参加者：2年生 25人 社会人聴講生6人）

＜講 師＞藤原 純、徳地祐二、田尾 晃

10月に焼成する登り窯での作品制作を、3人の講師がそれぞれの設定したテーマにそって制作を行った。

ウ. 野焼き体験実習

1年生 産業社会と人間 校外学習

＜実施日＞11月4日（金）（参加者：1年生 72人）

産業社会と人間で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深める。作陶や造形、焼成作業、陶芸の森施設見学を通して、2年次系列選択の選考材料とする。

エ. 「茶道と作陶の体験実習」の実施について

＜実施日＞11月15日（火）（参加者：1年生 72人）

1年生を対象に陶芸に関する知識と関心を高めるために、奥田英山先生による茶道、陶芸に関する講義をしていただいた。その後、グループに分かれて茶道体験、作陶体験をおこなった。

＜講師＞奥田英山（茶道）、神崎秀策（茶道）、田尾 晃（作陶）

オ. 登り窯焼成実習

2年生セラミック系列 セラミック実習A特別授業

＜実施日＞11月21日（金）（参加者：2年生 25人 社会人聴講生6人）

伝統的で大規模な焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と陶活動に対する意欲の向上を図った。

3. デザイン活性化事業

(1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽焼の洗面鉢を取り上げ、デザインを信楽町内在住の陶芸家である藤岡貢氏に依頼し、新しい感覚の試作品が出来上がった。来秋の産業展示館での展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色ある商品販売を行った。また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

入園者が自由に憩い楽しめるように公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。

※信楽まちなか芸術祭への協力

10月1日から10月23日まで信楽町一帯で開催された、「第3回信楽まちなか芸術祭—信楽流おもてなし「自然・陶・茶」(信楽まちなか芸術祭実行委員会)」について、陶芸の森として以下の事業を支援した。

1. 概要

(1) 会期：2016年10月1日（土）～10月23日（日）

- (2) 会場：滋賀県甲賀市信楽町（まちなか会場、陶芸の森会場 他）
- (3) 主催：信楽まちなか芸術祭実行委員会
- (4) 内容：日本六古窯の一つに数えられる“やきもののまち” 信楽を全国にアピールし、信楽焼のより一層の普及、信楽観光の発展促進に弾みをつけることを目的に「第3回目のまちなか芸術祭」では、一信楽流おもてなし「自然・陶・茶」をテーマに掲げ、伝統的なものから新しいものまで数々のやきものと出会える場を、まちなかにある各展示会場で創出した。また信楽地域の特産品とやきものとのコラボレーション企画なども行い、信楽らしい「おもてなし」で来場者を迎える企画とした。
- (5) 来場者数：125,961人

2. 陶芸の森との関連について

- (1) 信楽まちなか芸術祭実行委員会への職員の出役
 - 実行委員 川口雄司、杉山道夫（兼プロデュース部会長）
 - 事務局 佐々木翔、安藤祐輝
- (2) 陶芸の森としての会場等提供（陶芸の森の主催事業は除く）
 - ①開会式（信楽産業展示館ホール）及び「野焼きフェスティバル」（窯の広場）
 - ②「SHIGARAKI STYLE—暮らしを愉しむやきもの」（信楽産業展示館展示室）
 - ③「こうか商工まつり 2016」の開催
- (3) その他の協力
 - ①陶芸家、現代美術家による散策路での作品展示について、当該作家による作品制作をレジデンス事業の枠で取り込み展示等についても支援した。
 - ②「土と手」プロジェクト おくど飯（はん）の開催の支援

